

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (学術) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	PRATIWI TRI UTAMI
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) Religious Inherency Formation - Edu-community Practice in Supporting Religious Education for All Religions in the Multi-religious Society in Indonesia			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教授 日下部 達哉	
審査委員 (Name of the Committee Member)		教授 吉田 和浩	
審査委員 (Name of the Committee Member)		准教授 中空 萌	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本研究は、インドネシアの各宗教が有する宗教的内在性 (Religious Inherency) が、いかに機能して、学校において十分に実施されていない各宗教教育を子どもたちに施し、県レベルで実施される初等中等教育の修了試験をカバーしているのか、国内4地域 (バンカ島、ジョグジャカルタ、クパン、サブ島) の現地調査を通じて明らかにしたものである。</p> <p>第1章、研究の背景では、インドネシアでは、イスラーム、キリスト教 (カトリック、プロテスタント)、ヒンドゥー、仏教、儒教が存在し、それぞれに、教育の面をケアしようとする人々の集まりであるEdu-communityが存在すること、また、政府は、宗教教育を義務化しているため、全ての人々が宗教教育を受けるReligious Education for All Religions (REFAL) という前提があること、しかし実施するリソースが足りていない現状を説明した。</p> <p>第2章では、各調査地のコンテクストを叙述し、位置づけを明確にした。ムスリム卓越地域のバンカ島、ムスリム・ヒンドゥー混住地域のジョグジャカルタ、キリスト教卓越地域のクパンとサブ島といった特色を描いた。</p> <p>第3章、先行研究の検討では、インドネシアの宗教教育文献をはじめ、多面的な検討を行い、各宗教の特徴などに関する研究があるものの、宗教的内在性に関して深く掘り下げた研究が無いこと、また、Edu-communityや、REFALとの関連も明らかにされていないことがわかった。</p> <p>第4章では、マイノリティ宗教グループにおける宗教教育実施の困難さによって、いかに宗教的内在性が発揮されているか、という研究の枠組みを提示した。</p> <p>第5章、方法論では、108名のインフォーマント (宗教教育実施施設の校長、教師、生徒) に対して、半構造化インタビュー、フォーカスグループインタビュー、授業観察を行ったことを示した。</p> <p>第6章、ファインディングと分析では、マイノリティ宗教のフォーマル教育である学校の中では、宗教教育が十分に実施されていないことを明らかにし、さらに、各宗教グループにおけるコミュニティ内の宗教教育とその実践者と学習者、宗教実践の調査結果が描かれた。またそれらは、宗教的内在性の観点から慎重に検討がなされた。</p> <p>第7章、ディスカッションでは、4地域の比較を行い、公教育、特に島嶼部では、宗教教育の脆弱性があること、またそれらを補完するような宗教的内在性が、全地域で存在、またそれらが発動されて、Edu-communityが形成、REFALへ向けた宗教教育の取り組みがあることも確認された。</p> <p>第8章、結論では、現状、各宗教グループがもつEdu-communityによって、学校教育が提供できていない宗教教育面を補完していることについての全体像が活写され、REFALの保障が、少なくとも調査対象地においては保たれている現状が示された。これにより、何らかの教育要素が不足した国や地域でも、オーナーシップをもつEdu-communityによる補完ができれば、教育の不足は補えるという政策的示唆も示された。</p> <p>口述試験における質疑応答では、ギアーツなどの引用部分については、より狭めるべきであること、この研究の社会的な影響はいかに説明されるのか記述すべき、などのコメントがあった。申請者は丁寧に回答、上記を再度検討し、後日、修正済み論文を審査委員で確認し、適切に修正がなされたことを確認した。</p>			

本論文は、宗教的内在性という、宗教教育を補完しようとする理念の源泉を突き止め、宗教教育が不足する部分をEdu-communityが実践、実際に機能しているところを発見しており、新たな学術的、実践的示唆を与えるものとして、高く評価できる。

以上の審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 5年 7月 31日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)